

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第2回

1. 実施日

令和3年5月8日（土）1・2限

2. 場所

1棟多目的教室、7棟多目的教室

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 宇川和余 佐々木啓成 中澤知里 宮崎雄史郎

5. 内容

研究グループの編成

第1回での調査をもとに、4人を基本として研究グループを編成、アイスブレイク。

研究テーマを見つける（『課題研究メソッド』p42～p47）

（1）各自の興味・関心を確認する

各自が興味・関心を持った分野やテーマについて、それぞれが研究グループメンバーに紹介。「課題研究テーマを考えよう！」を返却し使用。

（2）分野・研究テーマについての知識・理解を深める

①キーワードカードの作成

各研究グループの研究分野に関するキーワードを各自が付箋に書き出す。チームの研究テーマは、あくまで4人の興味・関心のすり合わせから生まれてくるものであり、1人の意見が通ってしまいフリーライダーを作ることがあってはならない。よって、ここで個人の意見を尊重する意識を持たせる。

②キーワードマップの作成…キーワードの図解化

付箋をA1用紙に貼り付けてグルーピングし、グループ間の関係を図解化する。ここで、不明な点や疑問が生じる。この疑問を研究テーマの決定につなげる。「①キーワードカードの作成」で出た個人の意見をすり合わせて共通点を見出しながら、チームの研究テーマを決定していく。各自が自分の興味・関心についてはっきりとメンバーに説明した上で、チームの研究テーマに納得した形で終わることが大切である。

（3）研究テーマ（仮）を決定する

（2）の①②をもとに、各研究グループにおける研究テーマ（仮）を決定する。

*「研究テーマ（仮）決定シート」を使用

6. 学び

研究を進め、リサーチクエスチョンを構築するにあたっては、興味・関心があるテーマへの深い理解が必要であることを理解し、研究テーマ（仮）を決定する。

7. 次回への課題

研究テーマ（仮）を決定したうえで、次回の京都橘大学乾准教授による講義及びワークショップ「鳥羽高校の課題研究とは？（仮題）」に臨む。

8. 授業の振り返り

まずはチーム分けの意図（研究テーマの一致度合いを優先。）を説明し、チーム研究の進め方（最初から情報収集に固執しないこと）やシェアド・リーダーシップについても話をし、新しいチームを発表した。

1棟（自然科学系）と7棟（人文科学系）に分け、チーム研究を開始。まずはアイスブレイク活動として「1分間条件プレゼン」（キーワードを3つ提示し、それをを用いて1分間で誰も思いつかないようなオリジナリティあふれるストーリーを語る）を実施。新しいチームでの緊張感が幾分か和らいだようであった。

その後仮テーマ決定のため、キーワードマッピングを用い、チームメンバーの関心を合わせていく作業を行った。この活動が今後の研究活動の充実のため、非常に有用なものであることを説いた上で取り組ませた。（昨年度であれば、研究活動がかなり進んだ10月頃にもう一度研究開始当初のキーワードマッピングを見返し、研究を進めるチームもあつたことを紹介。）どのチームも円滑に話し合いをし、仮テーマ決定をすることができた。